

九条北小学校 校長室だより

NO.39 令和4年2月15日



2月半ばを迎え、九条北小学校の中庭には、水仙や紅梅が咲いています。木々のつぼみも膨らんできているようで、春を迎える準備が、少しずつできているようです。

さて、新型コロナウイルスの感染者数の推移をみると、依然として心配な状況が続いています。「まん延防止等重点措置」の期間延長も検討されているようです。引き続き、感染症対策へのご協力、よろしくをお願いいたします。



★ Teamsによる「(親子)学級懇談会」の実施について ★

先日、プリントでお知らせしましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、Teamsによる「(親子)学級懇談会」を実施することに致しました。お忙しい中とは存じますが、ぜひご参加ください。

2月16日(水)15:45より 高学年

2月18日(金)15:45より 低学年

2月24日(木)15:45より 4年生

※ 3年生の日程につきましては、後日、連絡いたします。

※ 学習用端末を持ち帰ります。新しいアカウントは、ご家庭のパソコンやスマホでは入れませんので、持ち帰った端末にてご参加ください。

★「人とのつながり」の力 ★*児童朝会で、次のような話をしました。

今、北京オリンピックが行われており、報道でも、オリンピックの話題がたくさん出ています。その中から、今日は、フィギュアスケート男子フリー、初出場で銀メダルを獲得した鍵山優真選手の話をしてと思います。18歳でメダル獲得というのは、日本のフィギュアスケート男子の最年少となるそうです。

実は、鍵山選手の大きな支えとなった人がいます。まずは、コーチです。鍵山選手のコーチは、2度の冬のオリンピック(アルベールビル1992、リレハンメル1994)に出場経験のある自身の父親。父・コーチの影響で本格的に競技を始めたのが5歳のころ。小中学生ではめだった成績は残していないそうです。飛躍のきっかけは中学3年の時に病気で倒れた父との「空白の時間」。今まで父に頼っていたことを自分で行わざる負えなくなりました。「嫌でも自分一人でなんとかしないとイケなかった」。それが自立につながったそうです。そして演技に深みができたそうです。

次に、大きな支えになったのは、羽生選手だといいます。2020年12月、全日本選手権で3位に入り、翌21年3月の世界選手権代表入りを決めたときのことです。

代表会見で「日本代表として足を引っ張らないように」と控えめな目標を口にした後、羽生選手に呼び止められたといいます。「優真の良さは、負けん気の強さと、勢いだと思うから、どんどん言っちゃえ。何かあったら俺が守るから」と、背中を押してもらったとのこと。この言葉で「自信がついた」そうです。それが、世界に飛び出す勇気をくれたといいます。

もちろん本人のがんばりが一番ですが、「人とのつながり」や「ことば」が、大きな力を生み出すことを感じました。

みなさんの周りにも、きっと大きな力になってくれる人がいると思います。ぜひ、人とのつながりを大切にしてほしいですね。